

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験		実務経験:	
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	54時間	週時間数	2時間
学習到達目標	キャリア(自分の生き方や働き方)について考え、計画し実行する		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	自己紹介	クラスメイトと親睦を深める
	2	クラス内親睦	開成山公園へのお花見
	3	目標設定	半年間の目標を立て発表する
	4	teamsの基礎知識	ログイン、チャットの利用方法
	5	teamsの活用	オンライン授業でのグループワーク
	6	実践行動学	マジックドア1
	7	実践行動学	マジックドア2
	8	実践行動学	マジックドア3
	9	実践行動学	マジックドア4
	10	実践行動学	マジックドア5
	11	ビブリオバトル	おすすめの本の紹介
	12	ビブリオバトル	おすすめの本の紹介
	13	他己紹介	2人組でインタビュー
	14	他己紹介	プレゼン資料の作成
	15		発表
	16	前期の振り返り	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	54時間	週時間数	2時間
学習到達目標	社会人に必要な基礎知識とビジネスマナーを習得し実践できる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	17	目標設定	半年間の目標を立て発表する
	18	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	19		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう
	20	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションと話し上手・挨拶
	21		正しい言葉遣いと敬語
	22	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	23	効果的な話し方を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成
	24	効果的な表現力を身につけよう	目線・アイコンタクト
	25	効果的な表現力を身につけよう	表現力を高めるジェスチャー
	26	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方
	27	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方
	28	面接について	面接のポイントを理解する
	29	自己分析	自己理解
	30	自己PRを考える	自己PRできるものを考える
31	自己PR作成	自己PR作成	
32	自己PR作成	自己PR作成	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自己探求 I	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	自らの興味関心を探求し、就職・進学意欲を高める 自らの進路決定に向けて主体的に見学に参加することが出来る		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	自己分析	ライフデザインナビ実施
	2	自己探求	ピアノ基礎演習
	3	自己探求	ピアノ基礎演習
	4	自己探求	ピアノ基礎演習
	5	自己探求	ピアノ基礎演習
	6	自己探求	ピアノ基礎演習
	7	自己分析	ライフデザインナビ振り返り
	8	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	9	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	10	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	11	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	12	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	13	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	14	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	15	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	16	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自己探求Ⅱ	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	33時間	週時間数	1時間
学習到達目標	自らの進路決定に向けて主体的に見学に参加することが出来る 自らの進路を決定し、次へのステップアップの準備をおこなうことができる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	自己探求	半年間の授業見学の計画・相談
	18	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	19	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	20	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	21	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	22	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	23	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	24	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	25	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	26	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	27	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	28	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	29	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	30	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	31	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
32	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制 1年制
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	54時間	週時間数	2時間
学習到達目標	ペンやえんぴつで文字を書く書写能力や知識を高め丁寧な文字で文書が作成できる 11月実施の硬筆書写検定3級への合格を目指す 社会人になるための基礎知識を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	硬筆書写検定3級テキスト及び書き込み式ドリル		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	自己紹介・授業の進め方
	2	硬筆書写検定の基本と問題演習	速書①
	3	硬筆書写検定の基本と問題演習	速書②
	4	硬筆書写検定の基本と問題演習	速書③
	5	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の楷書・行書①
	6	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の楷書・行書②
	7	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の楷書・行書③
	8	硬筆書写検定の基本と問題演習	縦書きの文章①
	9	硬筆書写検定の基本と問題演習	縦書きの文章②
	10	硬筆書写検定の基本と問題演習	縦書きの文章③
	11	硬筆書写検定の基本と問題演習	横書きの文章①
	12	硬筆書写検定の基本と問題演習	横書きの文章②
	13	硬筆書写検定の基本と問題演習	横書きの文章③
	14	硬筆書写検定の基本と問題演習	はがきの表①
	15	硬筆書写検定の基本と問題演習	はがきの表②
	16	硬筆書写検定の基本と問題演習	はがきの表③
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制 1年制
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	54時間	週時間数	2時間
学習到達目標	ペンやえんぴつで文字を書く書写能力や知識を高め丁寧な文字で文書が作成できる 11月実施の硬筆書写検定3級への合格を目指す 社会人になるための基礎知識を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	17	硬筆書写検定の基本と問題演習	掲示を書く①
	18	硬筆書写検定の基本と問題演習	掲示を書く②
	19	硬筆書写検定の基本と問題演習	掲示を書く③
	20	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の部分の名称①
	21	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の部分の名称②
	22	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の部分の名称③
	23	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の筆順①
	24	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の筆順②
	25	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の筆順③
	26	硬筆書写検定の基本と問題演習	草書を読む①
	27	硬筆書写検定の基本と問題演習	草書を読む②
	28	硬筆書写検定の基本と問題演習	草書を読む③
	29	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の字体(間違い探し)
	30	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の字体(間違い探し)
	31	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の字体(間違い探し)
32	硬筆書写検定の基本と問題演習	検定対策(振り返り)	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ネイチャー実習 I	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	20時間	週時間数	1時間
学習到達目標	土や砂、動植物など環境に対する直接的な自然体験を通し広い知識と技術を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 後期	17	ハーバリウムづくり	
	18	カラーサンドアートづくり	
	19	キャンドルづくり	
	20	畑での見学・体験実習	苗つくりの見学
	21	畑での見学・体験実習	収穫体験
	22	畑での見学・体験実習	収穫体験
	23	畑での見学・体験実習	寄せ植え体験
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	文書作成基礎		指導担当者名	添田 美華
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生	
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	6時間	
学習到達目標	文字の入力から文書の新規作成、既存の文書の編集、印刷まで、Wordの基本的な機能と操作方法を身につける			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	よくわかる Microsoft Word 2021 基礎			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画  前期	1	Wordの基礎知識	Wordの概要、Wordを起動と終了、文書を開く・閉じる、Wordの画面構成	
	2	文字の入力	IMEを設定する、文字を入力、文字の変換、文章の変換、単語の登録、読めない漢字の入力	
	3	練習問題	練習問題 解答・解説 タイピングソフトの使い方	
	4	文書の作成	ページレイアウトの設定、文章の入力、範囲選択、文字の編集、文字の書式設定、文書の保存、文書の印刷	
	5	文書の作成		
	6	練習問題	解答・解説	
	7	表の作成	表の作成、表の範囲選択、表のレイアウトの変更、表の書式設定、表のスタイルの適用、段落罫線の設定	
	8			
	9	練習問題	解答・解説	
	10	文書の編集	いろいろな書式の設定、段組みの設定、ページ番号の追加	
	11	文書の編集		
	12	表現力をアップする機能	ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、テーマの適用	
	13	表現力をアップする機能		
	14	練習問題	解答・解説	
	15	便利な機能	検索・置換する、PDFファイルを操作する、練習問題	
	16	期末試験		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	文書作成検定		指導担当者名	添田 美華
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生	
授業方法	講義:◎	演習:◎	実習:	実技:
時間数	42時間	週時間数	6時間	
学習到達目標	MOSの検定試験に臨める基礎的な知識を身につける			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
	11	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
	12	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
	13	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
	14	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
	15	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
	16	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	表計算基礎	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	6時間
学習到達目標	表の作成や編集、関数による計算処理、グラフの作成、並べ替えや抽出によるデータベース処理など基本的な機能と操作方法を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかる Microsoft Excel 2021 基礎		
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	Excelの基礎知識	Excelの概要、Excelの起動と終了、Excelの画面構成
	2	データの入力	データの入力、データの編集、セル範囲選択、ブックの保存、オートフィルの利用
	3	練習問題	解答・解説
	4	表の作成	関数の入力、セルの書式設定、表示形式の設定、列の幅や行の高さの設定、行の削除・挿入、列を非表示・再表示
	5	表の作成	
	6	練習問題	解答・解説
	7	数式の入力	関数の入力方法を確認する、いろいろな関数を利用する、相対参照と絶対参照を使い分ける
	8	数式の入力	
	9	練習問題	解答・解説
	10	複数シートの操作	シート名の変更、グループの設定、シートの移動・コピー、シート間の集計、別シートのセルの参照
	11	複数シートの操作	
	12	練習問題	解答・解説
	13	表の印刷	表の印刷、改ページプレビューを利用する
	14	グラフの作成	グラフ機能の概要、円グラフの作成、縦棒グラフの作成、おすすめグラフの作成
	15	データベースの利用	データベース機能の概要、データの並べ替え、データの抽出、データベースを効率的に操作する
	16	期末試験	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	表計算検定対策 I	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:◎	演習:◎	実習: 実技:
時間数	42時間	週時間数	6時間
学習到達目標	MOSの検定試験に臨める基礎的な知識を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	11	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	12	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	13	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	14	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	15	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	16	模擬試験	模擬試験・解答・解説
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション基礎	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	スライドの新規作成からプレゼン発表まで 基本的な機能と操作方法をを身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかる Microsoft Power point 2021 基礎		
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17	PowerPointの基礎知識	PowerPointの概要、PowerPointを起動する・終了する
	18		PowerPointを起動する、プレゼンテーションを開く・閉じる
	19	基本的なプレゼンテーションの作成	新しいプレゼンテーションを作成する、プレースホルダーを操作する
	20		スライドを挿入する、文字に書式を設定する、プレゼンテーション構成を変更する
	21	表の作成	表を作成する、行列を操作する、表に書式を設定する
	22		練習問題
	23	グラフの作成	グラフを作成する、グラフのレイアウトを変更する
	24		グラフに書式を設定する、グラフのもとになるデータを修正する、練習問題
	25	図形やSmartArtグラフィックの作成	図形を作成する、図形に書式を設定する、SmartArtグラフィックを作成する
	26		SmartArtグラフィックに書式を設定する、テキストをSmartArtグラフィックに変換
	27	画像やワードアートの挿入	画像を挿入する、ワードアートを挿入する
	28		練習問題
	29	特殊効果の設定	アニメーションを設定する、画面切り替え効果を設定する
	30	プレゼンテーションをサポートする機能	発表者ツールを使用する、リハーサルを実行する、目的別スライドショーの作成
31	総合問題	解答・解説	
32	期末試験	総合演習・試験	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション検定対策 I	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	30時間	週時間数	1時間
学習到達目標	スライドの新規作成からプレゼン発表まで 基本的な機能と操作方法をを身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist PowerPoint 365&2021対策テキスト&問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	29	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	30	模擬試験	模擬試験・解答・解説
31	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
32	模擬試験	模擬試験・解答・解説	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナー・秘書学		指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生	
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○	実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・社会人として必要な一般知識やビジネスマナーを習得し、適切な言動や立ち居振る舞いができる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材				
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画 後期	17	・秘書にも求められる能力 ・求められる能力と身だしなみ	・秘書としての心構え ・社会人として求められること	
	18	・秘書の機能 ・上司と秘書の関係	・秘書の業務 ・身だしなみ、挨拶の基本	
	19	・接遇のマナー	・接遇とは ・来客対応 ・名刺の取り扱い	
	20	・敬語と接遇用語	・尊敬語 ・謙譲語 ・丁寧語 ・接遇用語	
	21	・電話応対	・ビジネス電話のかけ方、受け方、取次ぎ方	
	22	・報告、連絡、相談 ・指示命令の受け方	・報告、連絡、相談の意味、ポイント ・指示命令の受け方	
	23	・コミュニケーションスキル～聞き方	・聞くスキル ・ラポールスキル	
	24	・コミュニケーションスキル～伝え方	・3部構成で伝えるスキル ・スピーチのポイント	
	25	・コミュニケーションスキル～会話スキル	・会話スキルをアップする	
	26	・ホスピタリティ	・ホスピタリティとは ・ホスピタリティの実践	
	27	・ビジネスメールのマナー	・ビジネスメールのマナー ・ビジネスメールの書き方	
	28	・文書の作成、文書の取り扱い	・社内文書、社外文書 ・文書の受信、発信業務 ・郵便の知識	
	29	・オフィス機器と事務用品	・主なオフィス機器と事務用品	
	30	・ファイリング、資料の整理 ・環境整備	・ファイリングの目的と種類 ・資料の管理 ・オフィスの清掃と環境整備	
31	・交際の業務	・慶事に関する知識 ・弔事に関する知識		
32	・総合復習 期末テスト	・総合練習 ・期末テスト		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	英会話	指導担当者名	石井 陽寿
実務経験	外国人受け入れ仲介のための通訳や翻訳業務に従事している		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	それぞれのシチュエーションにおいて会話を進行できるようになる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	English for best Hospitality		
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	Unit 8 Offering recommendations	Vocabulary, Listening,
	18	Unit 8 Offering recommendations	Key expressions, Pronunciation, Reading
	19	Unit 9 Prohibiting politely	Vocabulary, Listening
	20	Unit 9 Prohibiting politely	Key expressions, Pronunciation, Reading
	21	Unit 10 Comparing things	Vocabulary, Listening
	22	Unit 10 Comparing things	Key expressions, Pronunciation, Reading
	23	Unit 11 Apologizing to a customer	Vocabulary, Listening
	24	Unit 11 Apologizing to a customer	Key expressions, Pronunciation, Reading
	25	Unit 12 Giving instructions	Vocabulary, Listening
	26	Unit 12 Giving instructions	Key expressions, Pronunciation, Reading
	27	Unit 13 Giving Directions	Vocabulary, Listening
	28	Unit 13 Giving Directions	Key expressions, Pronunciation, Reading
	29	Unit 14 Encountering emergencies	Vocabulary, Listening
	30	Unit 14 Encountering emergencies	Key expressions, Pronunciation, Reading
	31	Unit 15 Getting feedback	Vocabulary, Listening
	32	Unit 15 Getting feedback	Key expressions, Pronunciation, Reading
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	国際理解	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	33時間	週時間数	1時間
学習到達目標	グローバルな視点を身につける 互いの文化や考え方を知り双方の「違い」を理解し相手を尊重することで相互理解の態度を深める		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	地球規模的課題	平和について調べまとめる
	18		人権について調べまとめる
	19		環境について調べまとめる
	20	自国を知る	日本における今日的課題の探求
	21		日本における今日的課題の探求
	22		日本における今日的課題の探求
	23	他国を知る	世界についての今日的課題の探求
	24		世界についての今日的課題の探求
	25		世界についての今日的課題の探求
	26		世界についての今日的課題の探求
	27		世界についての今日的課題の探求
	28		世界についての今日的課題の探求
	29		世界についての今日的課題の探求(留学生との交流)
	30		世界についての今日的課題の探求(留学生との交流)
	31	発表	自国他国の違いについて発表準備
32	発表	自国他国の違いについて発表	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	カラーコーディネート	指導担当者名	小池 久子
実務経験	各企業の色彩アドバイザー、各種団体のカラーに関する講演・講座等に從事している		実務経験： 有
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：○ 実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間
学習到達目標	色彩の基礎的な理論や体系的な知識を身に付け、色彩検定3級を受験し、その資格を取得することを目標とする		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	色彩検定3級公式テキスト、新配色カード199a		
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	色のはたらき、眼のしくみ	テキストP6～21、課題プリント
	16	照明と色の見え、混色	テキストP22～30、課題プリント、ミニテスト
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	カラーコーディネート		指導担当者名	小池 久子	
実務経験	各企業の色彩アドバイザー、各種団体のカラーに関する講演・講座等に従事している			実務経験:	有
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生		
授業方法	講義:◎	演習:○	実習:○	実技:	
時間数	64時間		週時間数	4時間	
学習到達目標	色彩の基礎的な理論や体系的な知識を身に付け、色彩検定3級を受験し、その資格を取得することを目標とする				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	色彩検定3級公式テキスト、新配色カード199a				
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画 後 期	17	色の分類と三属性、PCCS	テキストP31～48、課題プリント		
	18	色の心理効果	テキストP49～57、課題プリント、ミニテスト		
	19	色の視覚効果	テキストP58～68、課題プリント、ミニテスト		
	20	色相を手がかりにした配色	テキストP69～83、課題プリント、ミニテスト		
	21	トーンまた色相とトーンを手がかりにした配色	テキストP84～91、課題プリント		
	22	配色の基本的な技法	テキストP92～107、課題プリント		
	23	ファッション色彩	テキストP109～115、課題プリント		
	24	インテリア色彩	テキストP117～125、課題プリント		
	25	検定試験対策	課題プリント		
	26	検定試験対策	課題プリント		
	27	検定試験対策	課題プリント		
	28	検定試験対策	課題プリント		
	29	検定試験対策	課題プリント		
	30	検定試験対策	課題プリント		
	31	期末試験・検定試験合わせ及び解説	課題プリント		
	32	パーソナルカラー・色のユニバーサルデザイン	パーソナルカラー診断・色覚異常による色の見え方体験		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	クリエイティブ実習基礎	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	64時間	週時間数	4時間
学習到達目標	CapCut.Canvaなど動画編集ソフトが使えるようになる 目的に合わせた動画編集ができる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	1	映像制作講義①	動画を作る目的や意義
	2		身近にある動画
	3		動画がもたらす効果
	4		CapCutの使い方
	5	実習①	実際に場面を想定した写真や動画の撮影
	6	実習①	実際に場面を想定した写真や動画の撮影
	7	実習②	CapCutを用いた動画制作
	8	実習②	CapCutを用いた動画制作・発表
	9	実習③	Canvaの使い方
	10	演習①	自己紹介ポスターの製作
	11	演習①	自己紹介ポスターの製作
	12	演習②	自己紹介動画の製作
	13	演習②	自己紹介動画の製作
	14	演習③	自己課題の製作
	15	演習③	自己課題の製作
	16		自己課題の発表
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	心理学	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 1年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	心理学の基礎学び特に色にまつわる、心理的・生理的・感情的・文化的な効果や影響を理解する。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	心理学概論	心理学とは
	18		パーソナルスペース
	19	認知の発達	ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論
	20	認知の発達	ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論
	21	社会情動的発達①	自己の発達 第一次反抗期
	22		情動の発達 情動調整の発達
	23	身体機能と運動の発達	身体的機能の発達 運動機能の発達
	24	身体機能と運動の発達	身体的機能の発達 運動機能の発達
	25	様々な心理学	カラーセラピー
	26	様々な心理学	カラーセラピー
	27	様々な心理学	子どもの心理ケア
	28	様々な心理学	子どもの心理ケア
	29	様々な心理学	性格診断テスト
	30	様々な心理学	性格診断テスト
	31	様々な心理学	コラージュ
32	様々な心理学	コラージュ	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・園谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	自らのキャリアに対する考え方を構築する 社会人になるためのスキルや知識を修得する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	自己紹介	クラスメイトと親睦を深める
	2	クラス内親睦	開成山公園へのお花見
	3	目標設定	半年間の目標を立て発表する
	4	今、求められている人材とは	企業と学生の認識のギャップ
	5	社会で求められている人材になるには	自分の能力について 自分をバージョンアップさせる方法
	6	自分を売り込もう	自分を様々な視点で見してみる
	7	自分を売り込もう	言葉はマジック
	8	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう
	9	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションと話し上手・挨拶
	10		正しい言葉遣いと敬語
	11	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	12	効果的な話し方を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成
	13	効果的な表現力を身につけよう	目線・アイコンタクト
	14	効果的な表現力を身につけよう	表現力を高めるジェスチャー
	15	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方
	16	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数		週時間数	2時間
学習到達目標	自らのキャリアに対する考え方を構築する 社会人になるためのスキルや知識を修得する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画  前期	17	社会で求められている人材になるには	自分の能力について 自分をバージョンアップさせる方法
	18	自分を売り込もう	自分を様々な視点で見してみる
	19	自分を売り込もう	言葉はマジック
	20	あなたにとってのキャリアデザインとは	コミュニケーション力の大切さ
	21	あなたにとってのキャリアデザインとは	準備する心
	22	あなたにとってのキャリアデザインとは	発想法・思考法を上手に活用しよう
	23	まとめ	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマでまとめる
	24	まとめ	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマでまとめる
	25	発表会	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマで発表
	26	発表会	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマで発表
	27	面接について	面接のポイントを理解する
	28	自己分析	自己理解
	29	面接練習対策	面接対策
	30	面接練習対策	面接対策
31	面接練習対策	面接対策	
32	面接練習対策	面接対策	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自己探求Ⅲ	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	自らの興味関心を探求し、就職・進学意欲を高める 自らの進路決定に向けて主体的に見学に参加することが出来る		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	自己分析	ライフデザインナビ実施
	2	自己探求	ピアノ基礎演習
	3	自己探求	ピアノ基礎演習
	4	自己探求	ピアノ基礎演習
	5	自己探求	ピアノ基礎演習
	6	自己探求	ピアノ基礎演習
	7	自己分析	ライフデザインナビ振り返り
	8	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	9	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	10	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	11	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	12	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	13	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	14	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	15	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	16	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自己探求Ⅳ	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	自らの進路決定に向けて主体的に見学に参加することが出来る 自らの進路を決定し、次へのステップアップの準備をおこなうことができる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	自己探求	半年間の授業見学の計画・相談
	18	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	19	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	20	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	21	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	22	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	23	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	24	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	25	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	26	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	27	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	28	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	29	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	30	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	31	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
32	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得</li> <li>・情報を自分なりに解釈(理解)して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得</li> <li>・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集		
授業外学習の方法	日常生活においてコミュニケーション論で学んだことを活用する。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	コミュニケーションとは	
	2	聞く力について①	目的に即して聴く
	3	聞く力について②	傾聴・質問する
	4	話す力について①	目的を意識する
	5	話す力について②	話を組み立てる
	6	話す力について③	言葉を選び抜く
	7	話す力について④	表現・伝達する
	8	コミュニケーション実践①	来客対応
	9	コミュニケーション実践②	電話対応
	10	コミュニケーション実践③	アポイント・訪問・挨拶
	11	コミュニケーション実践④	情報共有の重要性
	12	コミュニケーション実践⑤	チーム・コミュニケーション
	13	コミュニケーション実践応用①	接客・営業
	14	コミュニケーション実践応用②	クレーム対応
	15	コミュニケーション実践応用③	会議・取材・ヒアリング
	16	コミュニケーション実践応用④	面接
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数		週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得</li> <li>・情報を自分なりに解釈(理解)して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得</li> <li>・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集		
授業外学習の方法	日常生活においてコミュニケーション論で学んだことを活用する。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	17	ロールプレイング①	来客対応
	18	ロールプレイング②	電話対応
	19	ロールプレイング③	アポイント・訪問・挨拶
	20	ロールプレイング④	情報共有の重要性
	21	ロールプレイング⑤	チーム・コミュニケーション
	22	ロールプレイング⑥	接客・営業
	23	ロールプレイング⑦	クレーム対応
	24	ロールプレイング⑧	会議・取材・ヒアリング
	25	就職対策	面接練習
	26	就職対策	面接練習
	27	就職対策	面接練習
	28	就職対策	面接練習
	29	期末試験	
	30	答案練習①	
	31	答案練習②	
32	答案練習③		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ネイチャー実習Ⅱ		指導担当者名	添田 美華
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	40時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	直接的な自然体験を通し広い知識と技術を身につける			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材				
授業外学習の方法				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画 後期	17	学びの振り返り	自然体験についての学びの発表	
	18	体験	直接的な自然体験	
	19	体験	直接的な自然体験	
	20	体験	直接的な自然体験	
	21	発表	学んだことの集大成として発表を行う	
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
31				
32				
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	文書作成応用		指導担当者名	添田 美華
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	114時間	週時間数	6時間	
学習到達目標	MOS Word 365&2021 Expert 試験必要な実力を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び毎時間の小テスト、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数化し、100点満点で評価する。期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。期末成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)の4段階評価とする。A,B,Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365&2021 Expert 対策テキスト&問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画 前期	1	文書のオプションと設定の管理	文書とテンプレートを管理する、共同作業用に文書を準備する、言語オプションを使用する、設定する	
	2	文書のオプションと設定の管理	文書とテンプレートを管理する、共同作業用に文書を準備する、言語オプションを使用する、設定する	
	3	高度な編集機能や書式設定機能の利用	文書のコンテンツを検索する、置換する、貼り付ける、段落レイアウトのオプションを設定する、スタイルを作成する、管理する	
	4	高度な編集機能や書式設定機能の利用	文書のコンテンツを検索する、置換する、貼り付ける、段落レイアウトのオプションを設定する、スタイルを作成する、管理する	
	5	ユーザー設定のドキュメント要素の作成	文書パーツを作成する、変更する、ユーザー設定のデザイン要素を作成する、索引を作成する、管理する、図表一覧を作成する、管理する	
	6	ユーザー設定のドキュメント要素の作成	文書パーツを作成する、変更する、ユーザー設定のデザイン要素を作成する、索引を作成する、管理する、図表一覧を作成する、管理する	
	7	高度なWord機能の利用	フォーム、フィールド、コントロールを管理する、マクロを作成する、変更する、差し込み印刷を行う	
	8	高度なWord機能の利用	フォーム、フィールド、コントロールを管理する、マクロを作成する、変更する、差し込み印刷を行う	
	9	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	10	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	11	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	12	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	13	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	14	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	15	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	16	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	文書作成検定対策Ⅱ	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:◎	実習: 実技:
時間数	42時間	週時間数	6時間
学習到達目標	MOSの検定試験に臨める基礎的な知識を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	18	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	19	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	20	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	21	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	22	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	表計算応用		指導担当者名	添田 美華
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	114時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	MOS Excel 365&2021 Expert 試験必要な実力を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び毎時間の小テスト、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数化し、100点満点で評価する。期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。期末成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)の4段階評価とする。A,B,Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2021 Expert 対策テキスト&問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	ブックのオプションと設定の管理	ブックを管理する、共同作業のためにブックを準備する、言語オプションを使用する、設定する	
	2	ブックのオプションと設定の管理	ブックを管理する、共同作業のためにブックを準備する、言語オプションを使用する、設定する	
	3	データの管理と書式設定	既存のデータを使用してセルに入力する、データに表示形式や入力規則を適用する、詳細な条件付き書式やフィルターを適用する	
	4	データの管理と書式設定	既存のデータを使用してセルに入力する、データに表示形式や入力規則を適用する、詳細な条件付き書式やフィルターを適用する	
	5	高度な機能を使用した数式およびマクロの作成	関数で論理演算を行う、関数を使用してデータを検索する、高度な日付と時刻の関数を使用する、データ分析を行う、数式のトラブルシューティングを行う、簡単なマクロを作成する、変更する	
	6	高度な機能を使用した数式およびマクロの作成	関数で論理演算を行う、関数を使用してデータを検索する、高度な日付と時刻の関数を使用する、データ分析を行う、数式のトラブルシューティングを行う、簡単なマクロを作成する、変更する	
	7	高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理	高度な機能を使用したグラフを作成する、変更する、ピボットテーブルを作成する、変更する、ピボットグラフを作成する、変更する	
	8	高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理	高度な機能を使用したグラフを作成する、変更する、ピボットテーブルを作成する、変更する、ピボットグラフを作成する、変更する	
	9	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	10	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	11	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	12	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	13	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	14	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	15	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説	
	16	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	表計算検定対策Ⅱ	指導担当者名	添田 美華
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:◎	実習: 実技:
時間数	42時間	週時間数	6時間
学習到達目標	MOSの検定試験に臨める基礎的な知識を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 後期	17	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	18	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	19	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	20	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	21	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	22	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション応用(卒業研究)	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	8時間
学習到達目標	2年間の集大成として各自の課題発見から研究、発表ができる プレゼンテーション技術を活用し、発表することが出来る		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	17	テーマの選定	各自研究のテーマについて決定する
	18	研究の進め方	選択したテーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする
	19	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)
	20	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)
	21	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)
	22	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)
	23	中間検討 I	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、 論議する
	24	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	25	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	26	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	27	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	28	中間検討 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で 検討しあう
	29	中間検討 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で 検討しあう
	30	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など
	31	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など
32	報告会	研究成果の発表	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	共助理解	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	地域の災害対応や保健、医療、福祉などの分野で重要な役割を担う存在となるために必要な基礎的能力を養う		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	情報リテラシー	信頼性のある情報源を見つける方法や、データの解釈方法
	2	情報リテラシー	信頼性のある情報源を見つける方法や、データの解釈方法
	3	情報リテラシー	信頼性のある情報源を見つける方法や、データの解釈方法
	4	情報リテラシー	信頼性のある情報源を見つける方法や、データの解釈方法
	5	医療とAI	AIを用いた診断支援、患者データの分析、健康管理アプリケーション
	6	医療とAI	AIを用いた診断支援、患者データの分析、健康管理アプリケーション
	7	医療とAI	AIを用いた診断支援、患者データの分析、健康管理アプリケーション
	8	医療とAI	AIを用いた診断支援、患者データの分析、健康管理アプリケーション
	9	倫理学	患者のプライバシーを尊重する方法や、公正な意思決定の原則
	10	倫理学	患者のプライバシーを尊重する方法や、公正な意思決定の原則
	11	倫理学	患者のプライバシーを尊重する方法や、公正な意思決定の原則
	12	倫理学	患者のプライバシーを尊重する方法や、公正な意思決定の原則
	13	社会学	地域社会のニーズを分析し、適切な対応策を考える方法
	14	社会学	地域社会のニーズを分析し、適切な対応策を考える方法
	15	社会学	地域社会のニーズを分析し、適切な対応策を考える方法
	16	社会学	地域社会のニーズを分析し、適切な対応策を考える方法
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	共助理解	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数		週時間数	2時間
学習到達目標	地域の災害対応や保健、医療、福祉などの分野で重要な役割を担う存在となるために必要な基礎的能力を養う		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 後 期	17	心理学	コミュニケーションスキルの向上やストレス管理の方法
	18	心理学	コミュニケーションスキルの向上やストレス管理の方法
	19	心理学	コミュニケーションスキルの向上やストレス管理の方法
	20	心理学	コミュニケーションスキルの向上やストレス管理の方法
	21	振り返り	共助理解とはなにかまとめる
	22	まとめ	共助理解とはなにかまとめる
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	簿記学		指導担当者名	大坂 友子	
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生	
授業方法	講義:◎	演習:○	実習:	実技:	
時間数	64時間		週時間数	4時間	
学習到達目標	小規模株式会社の会計処理について学ぶ。具体的には、期中仕訳、決算整理、財務諸表の作成をマスターし、日商簿記検定3級の合格を目指す。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	日商簿記3級合格テキスト・トレーニング・まるっと完全予想問題集(TAC出版)				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  前期	1	簿記の基礎、日常の手続き、商品売買取引	簿記一連の流れ、簿記の五要素、仕訳のルール、商品売買取引		
	2	現金預金、小口現金、クレジット売掛金、手形取引	期中仕訳(現金預金、小口現金、クレジット売掛金、手形取引)		
	3	電子記録債権・債務、さまざまな帳簿の関係	期中仕訳(電子記録債権・債務)、補助簿の記入		
	4	その他の取引Ⅰ～Ⅲ	貸付金・借入金、有形固定資産の取得売却、未収入金・未払金、仮払金・仮受金		
	5	訂正仕訳、試算表	仕訳誤りの訂正、試算表の作成		
	6	決算整理	現金過不足、貯蔵品、当座借越、売上原価の算定、貸倒れ、減価償却、経過勘定項目		
	7	決算整理後残高試算表、精算表、財務諸表	決算整理前残高試算表、精算表、貸借対照表、損益計算書の作成		
	8	株式発行、剰余金の配当・処分、税金、証ひょう	株式の発行の処理、消費税、法人税、伝票		
	9	問題練習	まるっと完全予想問題①		
	10	問題練習	まるっと完全予想問題②		
	11	問題練習	まるっと完全予想問題③		
	12	問題練習	まるっと完全予想問題④		
	13	問題練習	まるっと完全予想問題⑤		
	14	問題練習	まるっと完全予想問題⑥		
	15	問題練習	総合演習		
	16	問題練習	総合演習		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用する					

## 授業計画(シラバス)

科目名	健康と運動	指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習: 実技:
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	幅広い年代の健康と運動について実践的に学ぶ 社会人になったときのリフレッシュ方法を学ぶ		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	健康論	心の発達と健康
	2		身体の発達と健康
	3		こどもと運動
	4		青年期の運動
	5		社会人におけるメンタルヘルス
	6		社会人におけるメンタルヘルス
	7		社会人におけるメンタルヘルス
	8	ピラティスを体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	9	ピラティスを体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	10	ピラティスを体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	11	ピラティスを体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	12	ピラティスを体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	13	ヨガ体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	14	ヨガ体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	15	ヨガ体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
	16	ヨガ体験	リフレッシュ法・呼吸法を学ぶ
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	健康と運動		指導担当者名	添田美華・原澄江・鴻巣あすか・圓谷厚子
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科2年制 2年生	
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:	実技:
時間数	週時間数		2時間	
学習到達目標	幅広い年代の健康と運動について実践的に学ぶ 社会人になったときのリフレッシュ方法を学ぶ			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材				
授業外学習の方法				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	17	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	18	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	19	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	20	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	21	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	22	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	23	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	24	リフレッシュ方法を学ぶ	ヨガ・ピラティス・ボクササイズ・ズンバ	
	25	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
	26	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
	27	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
	28	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
	29	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
	30	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
	31	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法	
32	リフレッシュ方法を学ぶ	ストレッチ方法		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	クリエイティブ実習応用	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン職を5年間取り組んでいる		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	ライブデザイン科2年制 2年生
授業方法	講義:○	演習:◎	実習: 実技:
時間数	96時間	週時間数	前期:8時間 後期4時間
学習到達目標	・Illustrator、Photoshopの基本操作を学び、広報物制作ができるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	デザイン講義①	そもそも「デザイン」とは何か
	2	デザイン講義②	私たちの身の回りにある「デザイン」
	3	デザイン講義③	「良いデザイン」と「悪いデザイン」の違い
	4	実習①	Illustratorの基本操作・使い方
	5	実習②	Illustratorを使ったミニ課題「名刺」
	6	実習③	Photoshopの基本操作・使い方 写真の効果的な使い方
	7	実習④	Photoshopを使ったミニ課題「コラージュ広告」
	8	最終課題 制作	さまざまな広報物3つ作成「あなたの故郷をPR」
	9	最終課題 発表	コンセプトや制作意図、作った広報物についての思いを発表
	10	振り返り課題	Illustratorを使った課題制作
	11	振り返り課題	Illustratorを使った課題制作
	12	振り返り課題	Photoshopを使った課題制作
	13	振り返り課題	Photoshopを使った課題制作
	14	総合発表	
	15	総合発表	
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			